

民主島根

2021年
2.28
第1379号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

衆院比例中国ブロック議席奪還へ 野党連合政権樹立 力あわせよう

出雲 大平^{前衆院議員}とオンラインで集い

日本共産党の大平よしの前衆院議員・衆院中国ブロック比例予定候補は10日、出雲市の党出雲支部の「女性の集い」にオンラインで参加し、議席奪還と野党連合政権樹立への決意を語りました。県内では初めてのオンラインによる集い。吉井やすみ市議候補が参加しました。

大平氏は、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長（当時）が女性蔑視の発言をした問題について国内外から大きな批判の声が上がっているとし、「森氏の発言は、日本社会の問題点をあぶり出したというべきもの。個人の問題にとどめず、日本社会を変えるきっかけにしていこう」と訴えました。



TV画面の大平氏とオンラインで交流する参加者ら（出雲市）

また、国民や業者には罰則を押し付ける新型コロナ特措法について「検査体制の拡充や生活・仕事への補償こそ政治が行わなければならない」と述べ、「自

民党政権に代わる野党連合政権を樹立するために力を合わせましょう」と呼びかけました。

ジェンダー平等語り合う 中国5県の議員ら 大平^{前衆院議員}とオンライン交流

ジェンダー平等社会をめざし、日本共産党の大平よしの前衆院議員・衆院中国ブロック比例予定候補と中国5県の地方議員らが語り合うオンライン交流会が7日夕、開かれました。

岡山市の竹永光恵市議は市議会でも2015年に設けた特別委員会の初代委員長を務め、LGBT（性的少数者）の人たちとの懇談を行ったと紹介。2年後、LGBTのカップルをパートナーとして公的に証明する「パートナーシ

制度が始まったと紹介。4月の市議選に挑む、たちばなふみ予定候補は子育てのために立候補を悩んだとし、「決意を後押ししたのは綱領改定でジェンダー平等が明記されたことです」と語りました。

鳥取県の市谷知子県議は性暴力のない社会を求めるフラワーデモが昨年

1月から鳥取駅前を取り組まれ、延べ400人以上が参加していると述べました。

原子力規制委は厳正な検査を 尾村県議が意見陳述

尾村利成県議は、昨年の

が参加していると述べました。

鼓動

二月が去ろうとしている。例年にも増して賑やかな月月初めとなったのは、単に一二四年ぶりに二日が節分になったというだけではない。節分を境に運氣が変わるという謂われに、人々が少なからず今般の混迷を脱する「麒麟」の到来を期待したからではないか。▼そんな中、私たちが目にしたのは国会議員のあきれる程に節度を欠いた行動への弁解、謝罪、辞任。それに続く東京オリ・パラ組織委員会会長森喜朗氏の発言を発端とする一連の騒動と辞任・交代劇だった。▼過去にも数々の政治家が失言を繰り返して、かの加藤周一氏が『失言』の伝統と皮肉ったように、失言の後には定番の謝罪が繰り返され「なかったこと」にされてきた。今回も森氏は自らの立場を「わきまえず」、学ばない結果の言葉を垂れ流した。それは一時、「場の空気を読んで」水に流されかねなかった。▼しかし、そうは問屋がよろさない。その垂れ流された言葉は国内外からの批判・国際的な人権感覚のもとに発せられた多くの声によって、見事にせき止められた。同時に、日本の抱えるダブルバインド（二つの矛盾したコマンドが強制された状態）をも顕在化させることになった。▼教育現場では、若い世代に「異文化への理解・多様性」を要求しながら、その一方では日本特有の「同調圧力」に屈することを強要するという矛盾したコマンドの存在を、範を示すべき立場の人たちが世界に知らしめてしまったのだ。今後、こういった二つのバインドにどう向き合い、決着させるのか。世界の眼は思っている。厳しく日本を見つめていることを忘れてはならない。（江



尾村利成県議が意見陳述の様子

コロナ・政治 若者の不安

出雲 すみより氏と青年が交流

日本共産党中部地区委員会では7日、すみより聡美衆院中国ブロック比例予定候補を囲んだ「若者ミーティング」を出雲市で開きました。青年11人が参加し、党の「対話



アンケート&リポート」を用いて新型コロナや今の政治への思いなどを交流しました。（写真）

医学部に通う大学2年生の女性は「前期はオンライン授業で学校に行けなかった。実習も制限されたり、飲食店などでのアルバイトも禁止になった」と今後に対する不安を口にしました。保育士の女性は「保護者の悩みを共有する懇談会が今年度は全くできなくなりました。コロナ禍だからこそ保護者の話をよく聞きた

い」と語りました。

介護施設で働く青年らは「面会制限によって家族と直接会えない状況が続き、入所者の強いストレスになっている」、「医療・介護従事者は感染リスクから『Go To』トラベルは利用できない。それよりも、病院や介護施設に十分な財政支援を」と話しました。

すみより氏は「みなさんと力を合わせ、未来を暮らしやすい社会にするために頑張りたい」と話しました。

すみより氏は、吉井やすみ市議候補や青年と市内で宣伝しました。